2021年5月発刊

京都文教短期大学FD委員会年間活動報告書

1.はじめに

2020年度のFD委員会の活動に関する報告書が完成いたしましたので、ご高覧に供します。

平素はFD委員会の活動にご協力いただきましてありがとうございます。2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大および緊急事態宣言の発令に伴い、感染拡大防止を最優先とするべく、従来型の対面型の授業実施ができなくなりました。本学においても5月11日より原則非対面授業が始まり、後期も一部非対面授業を実施するなど、ほぼ全ての学生、教職員にとって経験がない中での非対面授業に、全員が懸命に取り組み、試行錯誤を繰り返しながらの一年であったことと思います。

FD委員会もコロナ渦による授業形態の変更に伴い、種々の対応に追われることとなりましたが、今年度主な取り組みとしては、以下、5つの重点施策を定めました。そして、施策毎にワーキンググループを設置して、施策の実現を目指しました。

１「全学FDと学科FD両者の促進及び大・短FDの協力促進」、２「コロナ禍での授業評価アンケートの検討および適切な回答率の実現」、３「教員間での授業改善に関する情報共有の活性化」、４「外の情報の学内への転移促進」５「委員会のPDCAの仕組みの構築」

FD研修会については大学FD委員会と共催で年間を通して4回オンラインにて実施し、アンケートに関しても大短FD委員会合同の授業アンケートWGを設け、実施内容・方法等を検討いたしました。授業参観については実施形態をオンデマンドに切り換えた結果、多くの教職員が参加できるようになり、参観数が大幅に増加しました。また、外部のFD研修会やフォーラム等のFD関連情報を全教職員に毎月メールで案内することにより、積極的なFD情報の発信に努めてまいりました。

今年度のFD委員会はコロナ渦による授業形態の変更に伴い、委員会の原則オンライン開催など、初の試みが非常に多い一年でありましたが、ワーキンググループの積極的な活動および教職員の皆様のFD活動へのご協力により、5つの施策を無事に実現することができたと思います。今年度のFD委員会には、委員として5名の教員と5名の職員に、また事務局から2名の職員に参加して頂きました。これらの教職員の皆さんには、今年度の委員会活動に協力頂いたことについて、この場を借りて感謝申し上げたいと思います。

2020年度FD委員長　田中真紀

2.2020年度FD委員会

2-1.2020年度FD委員会構成員

2020年度のFD委員会構成員は以下のとおりである。

［委員長］田中真紀（議長）
［学長］平岡聡
［学科FD委員］
　　ライフ：岩田美智子　食物：望月美也子（副委員長）　幼教：齋藤尚志、岩佐明子
［学長が必要と認めた者］
　　加賀田敦子、早川弘祥、大八木美希、村山孝道、大河内良紀
［学外有識者］
　　榊原孝道氏
［列席者］
　　高見功
［事務局］
　　山中耕

2-2.2020年度FD委員会開催状況

今年度について、コロナ禍の影響等により原則オンライン（GoogleMeet）で開催した。

	開催日	主要議事（審議事項）
第1回	2020年5月27日	・副委員長の選出 ・2020年度授業アンケート大短合同WG選出 ・2020年度前期授業アンケート実施時期
第2回	2020年6月17日	・2019年度授業アンケート集計、学科分析依頼 ・2020年度前期授業アンケートの目標回答率について
第3回	2020年7月15日	・2020年度前期振り返りアンケートについて
第4回	2020年9月16日	・2019年度授業アンケート学外有識者よりの意見聴取について（対面実施）
第5回	2020年10月21日	・2020年度後期授業アンケートについて
第6回	2020年11月18日	・FD委員会規程の改正について ・2020年度秋学期・後期授業アンケート・振り返りアンケートの実施について
第7回	2020年12月16日	・FD委員会規程の改正について
第8回	2021年1月27日	・2021年度重点施策・年間計画について
第9回	2021年2月24日	・2021年度重点施策・年間計画について
第10回	2021年3月24日	・2020年度年間活動報告書について

3.当年度重点施策と結果

2020年度は以下の重点施策を定め、FD委員会として活動をおこなった。

No.	重点施策	到達目標	具体的な施策	アセスメントプラン
1	全学FDと学科FD両者の促進及び大・短FDの協力促進	①全学FDが継続的に実施される ②学科FD（桑木氏WS等）がFD活動として位置づけられる ③大・短で協力したFD研修が実施される	①年２回のFD研修会をFD委員会で実施する ②学科主催桑木氏のWSをFD委員会の協力として実施する ③大・短共催のFD研修会を開催する	①FD研修会の開催数で確認 ②協力研修（桑木氏WS）の有無で確認 ③大・短共催のFD研修会の開催実績で確認
2	前期コロナ禍での有効な授業評価アンケートの実施及び後期新アンケートの実施方法・内容等の検討、及び適切な回答率の実現	①前期コロナ禍における適切な授業アンケートが実施される ②後期アンケートの内容や方法が決定し、スムーズに移行される ③アンケートの回答率が目標値に達する	①学生や教員にとって負荷が高すぎず、しかし有効なアンケート項目を策定する ②アンケート内容・方法を決定する ③目標を設定し、回答率アップのための施策を策定する	①有効な分析結果が得られたかどうか ②内容・方法が決定したかどうか ③アンケートの回答率が上昇したかどうか
3	教員間での授業改善に関する情報共有を活性化させ、より良い教育を届ける	①授業参観制度の利用者が増加する ②その他、教員間の情報共有の場が増加する	①授業参観制度の再検討（内発・外発的動機付施策の検討） ②その他、情報共有の場を少しでも多くつくる	①新授業参観制度のプランが策定されたかどうか ②情報共有の場が作られたかどうか
4	学外の情報の学内への転移を促進させる	①学外研修会の情報が学内に共有される ②学外研修会への参加が増加する	①学外研修会一覧を全教員に共有する ②学外研修参加の報告を委員会内で共有し、必要であれば学科に共有する	①2020年度はなし ②学外研修会の報告が委員会内で共有されたかどうか
5	委員会のPDCAの仕組みを構築する	①委員会としてのPDCAが回る ②目標をベースとした事業運営が行われ、実施後にアセスメントが実施される	①重点施策、年間計画を策定する ②年度末にアセスメントを実施する	①①が策定されたかどうか ②アセスメントが実施されたかどうか

3-1.全学FDと学科FD両者の促進及び大・短FDの協力促進

WGメンバー：岩佐（座長）、田中、早川、村山

＜施策の実施と結果＞

WGの打ち合わせにより、前年度からの申し送り事項であるアセスメンターのデータ活用方法等の研修会実施、学科別研修会の実施の活性化について確認がなされた。

重点施策の到達目標に沿った今年度の具体的な施策として、以下の3点が確認された。

①年2回のFD研修会をFD委員会で実施する。

②学科主催桑木氏のWSを事前に位置づけ・目的を明確化した上で、FD委員会の協力として実施する。

③大・短共催のFD研修会の実施は①に含めることとする。

施策①③について「ICTを活用した非対面型授業について」「非対面型授業における著作権」「ポストコロナ時代の授業のありかた」」「数理・データサイエンス・AI教育に関する大短合同のFD研修会」が実施され、到達目標に達した。FD研修会については下記に詳細を記載する。

施策②は、ライフデザイン学科では桑木氏による「ライフデザイン学科FD研修会カリキュラムアセスメントワークショップ」「ライフデザイン学科FD研修会」が実施された。

食物栄養学科では「ICTWG」「調理系実習WG」「実験実習WG」「栄養士WG」「非対面授業・アドバイザーアワー ミーティング」「非対面授業 ミーティング」「実験実習対面授業 ミーティング」「新カリキュラムWG」「カリキュラムWG」が実施された。また、桑木氏を講師に迎え「前期の振り返り 学科FD研修」が実施された。

幼児教育学科では「2020年度幼児教育学科FD研修会（学外実習に関する勉強会）」「2020年度幼児教育学科FD研修会（指導計画作成に向けて～指導案作成のためのチェックリスト～）」また、桑木氏を講師に迎え「前期の振り返りの学科FD研修会」「幼児教育学科FD研修会カリキュラムアセスメントワークショップ」が実施された。

各学科ともに活発な活動がなされ、到達目標に達した。

・2020年度FD研修会の実施状況

FD委員会として以下のFD研修会を実施した。

①「ICTを活用した非対面型授業について」大学FD委員会と共催

概要　：　新型コロナウイルス感染拡大により、大学・短大ともに「非対面型授業」の実施を余儀なくされることとなり、その実施方法として、ICTを活用した幾つかの手法について、本学教職員が講師となってリレー形式で説明を行った。いずれも、講師自身が試行錯誤しながら行った 事例も含めてのレクチャーもあり、「非対面型授業」への実施に不安のあった大学・短大教員にとっては、各自の担当科目での授業運営や資料作成を行っていく上で、具体的なイメージが持つことができた機会となった。また、この研修会は、ハングアウトミートで研修の映像をライブ配信し、会場に来ることのできない非常勤教員にも情報共有を行った。

日時　：　2020年4月1日（水）14:40~16:50

場所　：　G101教室

テーマ：　①パワーポイントスライドショー作成（オンデマンド）講師：小林　康正　氏（総合社会学部教授・大学FD委員）

②Youtube録画のデモ　講師：寺尾　健志　氏（総務課　課員）

③ハングアウトミート・グーグルフォーム（ライブ）講師：澤　達大　氏（総合社会学部　准教授・大学FD委員）

④UNIPAの基本機能　講師：塩竈　義晴　氏（教務課　課員）

⑤より良い非対面型授業・著作権　講師：桑原　千幸　氏（ライフデザイン学科　准教授）

参加者：　180名　(大学教員70名、短大教員31名、職員79名）

②「非対面型授業における著作権」大学FD委員会と共催

概要　：　新型コロナウイルスの感染拡大防止のために、本学でも5月11日よりオンラインやオンデマンドの非対面授業が開始された。非対面授業で写真や動画・論文等の著作物を利用する場合、著作権法上の問題が発生する場合が懸念される。非対面授業の技術的な支援は様々おこなっているが、著作権に関する質問については、専門部署がないために対応ができていないのが現状である。また、今年に入り、平成30年改正著作権法の制度前倒しがおこなわれ、授業目的公衆送信補償金制度が4月28日スタートすることとなった。次いで、この制度について授業目的公衆送信補償金等管理協会より、2020年度に限り特例として補償金額の無償化の動きがあり教育機

関における著作権を取り巻く環境は日々変化をしている。授業を実施する上で、教材等の著作権の考え方や注意点、改正著作権法に理解を深めること　は、本学の教育研究活動にとり重要なことであると考える。これらにより外部講師を招き以下FD研修会を開催した。

日時　：　2020年7月6日（月）13:00～14:30
場所　：　オンライン（Meet）
テーマ：　「非対面型授業における著作権」大学と共催
講演講師：　大阪工業大学知的財産学部知的財産学科　特任教授 甲野正道氏（こうのまさみち）
参加者：　147名　(大学教員50名、短大教員29名、非常勤講師21名、職員46名）

③「ポストコロナ時代の授業のありかた」大学FD委員会と共催

概要　：　春学期・前期は殆どの授業を非対面で実施するという、未曾有の事態となった。この危機的な状況下において、大きな事故や、学生からの深刻なクレームもなく春学期・前期を終えることができた。ただし、春学期・前期は、学生・保護者を含め社会は、この危機への緊急対応として様々な不手際を受け入れ許容していた状況であった、今後はその目が少し厳しくなることが予測されている。改善できる点は少しでも改善した上で、秋学期・後期を迎えるべく、ポストコロナ時代における、ICTを活用した教育手法を取り入れた新たな教育の価値について、専門家である土持ゲーリー法一氏を講師に迎え以下FD研修会を開催した。

日時　：　2020年9月7日（月）13:00～14:30
場所　：　オンライン（Meet）
テーマ：　「ポストコロナ時代の授業のありかた」
講師　：　土持ゲーリー法一氏
京都情報大学院大学副学長・教授、高等教育・学習革新センター長
エデュケーショナル・コンサルタント
参加者：　158名（大学教員：54名、短大教員：27名　大短：非常勤講師：35名　職員：42名　※オンデマンド視聴を含む）

④「AI・数理・データサイエンス教育」大学FD委員会・ともいき基盤教育センターと共催

概要　：　今後の大学及び短大での数理・データサイエンス教育の在り方や具体的な教育内容の検討を進めることにより、次年度以降の数理・データサイエンス教育科目の科目担当者の能力開発を目的とし以下FD研修会を開催した

日時　：　2020年10月21日（木）13:00～14:30
場所　：　オンライン（Meet）
テーマ：　「数理・データサイエンス・AI教育」
講師　：　枝富喜夫氏　京都文教大学・短期大学非常勤講師
（「情報機器演習」「現代とICT」他、株式会社モーリス所属）
参加者：　29名（大学教員7名、短大教員5名、職員17名　※オンデマンド視聴を含む）

この他にも、大学FD委員会主催の「2021年度の授業を考える：教員の疑問・相談を起点とした講演会」（2020年12月14日（月）開催）「教学マネジメント指針～何が書いてあるのか、どう使うのか」（2021年3月11日（木）開催）についても、FD委員会として教員に案内をおこない、参加者を得た。

3-2.前期コロナ禍での有効な授業評価アンケートの実施及び後期新アンケートの実施方法・内容等の検討、及び適切な回答率の実現

WGメンバー：田中（座長）、岩田、加賀田、大八木

＜施策の実施と結果＞

2020年度は新型コロナウィルスの影響により、前期は原則として全て非対面型授業、後期は対面型授業と非対面型授業の併用で授業を実施することとなった。そのため、従来の授業評価アンケートが適用できず「授業アンケート大学短大合同WG」を立ち上げアンケートの時期・内容・方法を検討することとなった。合同WGは前期では2回、後期も2回開催し、学生の負担や非対面授業を踏まえた大短共通の授業評価アンケート項目を学期毎に作成した。また、授業評価アンケートとは別に、非対面型授業の効果・課題点を明確にするため、学期全体の振り返りアンケートを実施した。アンケートの実施方法については前期はUNIVERSAL PASSPORTを用いて実施したが、後期はAssessmentorへ移行した。振り返りアンケートはGoogleフォームを用

いて実施した。短期大学では、回答率の目標値を前期・後期ともに80%に設定するとともに、目標達成のために、スマートフォンでの回答方法の周知、全教員へのアンケート実施協力依頼、学科毎にゼミやアドバイザー制度を活用してアンケートの入力依頼を行った。施策①と②に関しては、学生や教員にとって負荷が高すぎずかつ有効なアンケート項目を策定する到達目標を達成することができたと考える。施策③に関して、前期の回答率は87.7%、後期では91.1%となり、目標数値80%を達成ですることができた。

・授業アンケートの実施結果（2020年度）
　　前期　回答率：87.7%（回答件数6576件／対象履修者数7498件）
　　後期　回答率：91.1%（回答件数6017件／対象履修者数6603件）

・振り返りアンケートの実施結果（2020年度）
　　前期　回答率：53.6%（回答者数296／対象者数552）
　　後期　回答率：47.1%（回答者数258／対象者数548）

・学外有識者からのアドバイス
2019年度の授業アンケートについて、2020年9月16日開催のFD委員会に、学外有識者の榊原孝道氏を迎え、授業アンケートを元に課題点や今後についてのアドバイスを伺った。榊原氏より「DPに対して一つ一つの科目が役割を果たす仕組みを」「科目間連携、開講時期等の検討が必要」など踏み込んだ意見を得て学科に共有をおこなった。

3-3.教員間での授業改善に関する情報共有を活性化させ、より良い教育を届ける

WGメンバー：岩田（座長）、望月、大八木、加賀田

＜施策の実施と結果＞
　授業参観の目的、現状の課題をWGにおいて確認した。重点施策の到達目標達成のための授業参観の実施に関しては従来通り年２回（前期・後期）とし、前期の①実施方法・②参加方法・③フィードバック方法・④参観の時期等について話し合いがなされた。2020年度はコロナ禍により、対面授業がほとんど実施されないことが予想されたため、従来の授業参観の方法とは異なる実施方法を模索し、以下の実施方法とした
①実施方法：オンデマンド授業のコンテンツを各教員に依頼した。
②参加方法：オンデマンドコンテンツについて期間内に視聴する。
③フィードバック方法：各自視聴後、グーグルフォームにフィードバックする。
④参観期間：前期　8月17日～9月14日　　後期　2月8日～3月7日
　参観結果、前期提供科目数25科目・フィードバック（参観者数）127件、後期提供科目数18科目・フィードバック（参観者数）81件であった。実施方法が異なるために昨年度の実績と比較評価することはできないが、これまでになく多くの先生方が、他の先生方の講義を観る機会となったことは確かである。オンデマンド授業という、これまでほとんどの先生方が取り組んだことのない授業を実施するに当たって、他の先生の授業を閲覧することは有意義であったと思われる。実際に、後期に提供されたオンデマンド授業のスタイルは前期よりもバリエーションが増え、オリジナリティのある授業が多くなっていたことから、前期の授業参観が活かされていたと考えられ、到達目標に達したと言える。次年度の課題として、授業方法が対面授業・ハイブリッド型授業・反転授業などさまざまになってくると予想されることから、今期実施できなかった対面授業の録画を授業参観の方法として活用する仕組み作りを早い段階から実施する必要がある。

・授業参観の実施報告書（学内のみ閲覧可能）
　　＜前期実施報告書＞　　＜後期実施報告書＞

3-4.学外の情報の学内への転移を促進させる

WGメンバー：齋藤（座長）、岩佐、早川、大河内

＜施策の実施と結果＞
　今年度は、学外情報の学内転移を促進させるべく、FD委員会で収集した学外研修会開催等の情報をメール配信により全教職員に周知した。新型コロナウイルス感染症の感染拡大によるオンライン研修会の増加もあり、FD研修会や高等教育関連の協会等のシンポジウムなどの情報を、8月より全教職員にメールで配信し、年間約100件提供した。それにより、大学コンソーシアム京都主催のFD研修プログラム等、学外FD研修会やセ

ミナーに教職員が参加した。また、FD委員会内では、学外研修会に参加した委員が報告をおこない、報告を受けた委員から各学科へ参加研修会の要旨を適宜伝えた。以上により到達目標を達成した。

なお、委員による学外研修会への参加は増えたものの、委員以外の教職員が学外研修会へどの程度参加したかについては十分に把握できていない。コロナ下におけるオンライン授業の準備やオンライン会議による学内業務の遂行による負担などを考慮し、今年度は情報提供に力点を置いたためである。次年度以降は、ひきつづき学外情報の提供を全教職員におこなうとともに、教職員の学外研修会等への参加および報告の共有・活用を図っていくことが次年度に向けた課題である。

3-5.委員会のPDCAの仕組みを構築する

WGメンバー：望月（座長）、齋藤、村山、大河内

＜施策の実施と結果＞

第1回委員会にて、2020年度重点施策および年間計画を全ての委員で共有し、各WGに分かれて実施することを決定した。その後は、各WGの座長と委員が積極的にWGに取り組み、目標をベースとしたWGの運営を行った。WGごとにアセスメントを実施し、次年度以降の改善に至るまで、話し合いを行うことができた。

これらのことから、PDCAの仕組みを構築し、PDCAを回すことができたと評価できる。

4.その他のFD活動

4-1.学生参画自己点検評価・カリキュラムアセスメント

2020年10月7日（水）に、学生参画自己点検評価・カリキュラムアセスメント報告会を開催した。

＜学生参画自己点検評価・カリキュラムアセスメント報告会実施報告書＞（学内のみ閲覧可能）

以上